

第五十五回
地震研究所
談話會

大正十二年九月一日の關東大地震は東京市が災害の中心となつた爲めに、其當時は地震の調査研究などの餘裕もなかつたが、昨年十一月の伊豆の大地震は災害の場所が研究に好都合の地方であつたのと、今春以來の伊東温泉の地震に續いて學者専門家の注意を集注しつゝあつた處なのであるから、其の報告も非常に早く發表せらるるに至つた。其報告の最も權威あるものとして、工事技術家等の注意を引いたものは十二月六日、東京帝大山上御庭で開催された、第五十五回地震研究所談話會であつた。當日は從前前に聽講者既に満員の盛況で、古市男爵、那波、眞島物部、山口、谷口等の諸博士を始めとして、土木、建築關係の技術家が最も多數であつた。當日の講演者及び題目は次の如し。

1 伊豆地震直後に於ける伊東地方水準検測成果報告(約15分) 末廣 勝二

1 伊豆地震と模型實驗との機巧の比較(約15分)
藤原 眑平
高山 威雄

1 伊豆地震後丹那隧道内に於ける傾斜變化觀測
(約20分) 高山威雄、石本巳四雄、高橋龍太郎

1 地震後に於ける丹那斷層運動の逐次的計測豫報
(約5分) 坪井 忠二

1 家屋の移動と筋違の効果(約20分)
齋田時太郎

1 土木工作物の被害(約15分) 松村 孫治

1 伊豆地震調査概報(約20分)

坪井誠太郎、津屋 弘達、大塚彌之助

1 地震に伴ふ光の現象(約20分) 寺田 實彦

1 伊豆地震の前震並に餘震の活動に就て豫報
(約30分) 那須信治、岸上冬彦、小平孝雄

1 伊豆地震の振動計測結果に就て(約25分)

今村 明慎

1 伊豆地震と關東大地震との關係(約20分)

長岡米太郎、白井 俊明

未廣博士は伊豆地震の前後に於ける水準測量の結

果を本年一月末までには發表出来るだけに調査を進めつゝある事を報告し。

藤原博士は地震と斷層との關係を白臘の小模型で實驗中の報告をなし。

石本博士は丹那隧道内三ヶ所に据付た傾斜計の觀測を發表し、十一月二十六日の地震當日は73秒の傾斜運動を生じ、同三十日には52秒、十二月十一日には16秒となり、漸次安定に向ひつつあるも、尙ほ今後安全なる觀測を續ける目的で、延長20メートルのサイホン式の水管を丹那隧道西口坑内に据付準備中なりと。

坪井氏は地震後の丹那斷層の逐時的運動を調査するため斷層の地表に十六ヶ所の測點を設け、水平角度の變化及び水準の變化を調査しつゝあるを報告し

齋田氏は伊豆地震後の建築物に就て視察の結果を發表し、鐵筋コンクリート構造物に一の被害もなく最も安全なりとし、煉瓦造、石造等には被害多く、木造の日本家屋にても筋違の完全なるものは被害なく、小學校等の倒壊せるもの少なきは筋違の完全なる爲であるとなし、二階以上の建物には幅4寸、厚7.5分の筋違では小さすぎる様である。特に木造日本造の構造でも、東西部に補強用の金物を使つたものは全く被害を免れてゐた事を興味深く述べ。

松村氏は丹那の貯水池及び垂山貯水池等の土堰堤缺壊に就ての視察報告をなし。

坪井氏は、丹那盆地を中心として北と南に走つてゐる舊斷層線に就て今回の地震の影響を述べた。

那順氏は昨年2月から東南伊豆に頻發した地震に就て説明し、地震の中心地が伊東より網代に移り、12月10日至つて尙ほ一日230回の地震のあつ事なを發表し、地震と海水の干満及び氣象との關係に就ての調査等を述べ。

今村博士は今回の大地震の最初の震動午前4時3分6秒に於ては壁の龜裂位のものであつたが、第2回目の3.7秒に於ては第一回の震動の8倍となり第三回の4秒に於ては第1回の震動の20倍となつた。此中には斜に走る震動もあつて家が移動した事等に就て述べ

長岡博士は最後に大正十二年九月の相模灣海底の大陥没に依る大地震と今回の大地震と何れも大山系地殼の變動に關係あることを述べられた。